

令和3年度 社会福祉法人明徳会 事業計画

◇ 今年度のポイント

①「ピンチをチャンスへ」

●何もしないことが、一番のリスク、ピンチのときだからこそチャレンジしていく姿勢で

●開所から今まで 苦境の中で培ってきたものがたくさん

開所してすぐの法改正、利用者が定員に満たない状況が続く、熊本地震、職員の人手不足、働き方改革…。たくさんのピンチが今の明徳会の礎に。そして今回のコロナ禍…数年後、この時期があったから成長できたと思えるような年に。新たな明徳会のブランド、強みを構築していく一年としていく。

② 引き続き「明徳会」ブランドの再構築の意識を持って

●開設当初から大切にしてきた権利擁護（アドボカシースタンダード）を基にして、前向きにチャレンジする気持ちを忘れずに取り組んでいく。

●ご利用される方にとって最善で先駆的なサービスを提供できるよう、内部・外部を問わず、スキルアップ・フォローアップ研修を積極的に行っていく。

「できないではなく、できるには？」の思考で。（ソリューションフォーカスの視点）

●意思決定支援を基にして、ご利用者様がわかりやすく楽しく喜んでいただけるようなサービス提供を目指す。体感しやすく、選び易い「提案の見える化」の追求、信頼できるブランド力を求め、明徳会の強みを生かし「ブランド力の再構築」に引き続き取り組んでいく。

③ SDGsの整備を進め、明徳会としてまた一職員として持続可能な開発目標の策定・実行に努めていく。

●職員・ご利用者様の多様性に対応できる環境づくりを目指す。

働く職員の生活スタイルや仕事に対する価値観、家庭と仕事の両立等、様々な雇用条件の多様性に対応。多様な働き方に対応しながらも公平性の観点を意識し、バランスの取れた給与体系の整備を進めていく。

●今の社会情勢を踏まえた、環境を意識した取り組みの創造。

職員一人ひとりが環境に目を向け、全員で発案し意識して取り組んでいく。色々な作成をおこなっていくにあたっては、新たに作り出すものだけでなく、既存で実施しているものでもできていることを一人ひとりがしっかりと再認識し、それを更にアップデートしていく気持ちを持って取り組んでいく。

一言コメント

「VISION 2」2年目！ 昨年の課題を踏まえて 2024年までの達成を目指し 再スタート。

◇ 事業方針

「ピンチをチャンスへ」

R2年度から「VISION2」を作成し、2024年度までに取り組む重点目標を掲げ、事業運営を行っています。その中昨年度は、ブランド力の再構築を運営ポリシーに掲げ1年間取り組むこととしていましたが、コロナ禍の中思うように進むことができなかった実状がありました。当法人だけでなくどの事業所でも困難な状況であった一年でしたが、今年度はwithコロナの中での計画を行い、「ピンチをチャンスへ」を運営ポリシーに掲げ、今まで開所から育ててきた自分たちの強みを生かして再度ブランド力の構築へとしていける一年としていきます。

◇ 事業所ごとでの取り組み

●【チャレンジめいとくの里 入所／介護系】

昨年度から日中活動に関しては入所部・通所部を完全に分離した形でスタートして、コロナ禍の中でも分離していたことで継続できたところもあったため、今の体制で更に強みを生かした取り組みが「入所」「通所」それぞれで求められる一年となると感じています。職員の待遇面では働き方改革を含め、休憩時間の確保など一定の効果は出てきていますが、週末の体制にはまだまだ課題が残っています。入所に関しては今後、益々ご家族の方の高齢化が進む中、自宅帰省が少なくなると予想されています。土日の中身の充実が求められています。意思決定支援を基本として社会生活支援や日常生活場面で明徳会らしい活動中身の構築を作る一年としていきたい。

●【ゆめくらしワークス】（就労支援・生活訓練・就労継続支援B型・就労定着支援）

昨年度、法人組織の中でコロナ禍の影響を一番に受けたのがこの就労分野で、外部との繋がりを思うように持てない中、大きな打撃を受けています。そんな中、今年度からコーディネーターと相談役という形を新たに設け、バックアップ体制と現場の職員の補充を行った上で立て直しを図る重要な一年となると考えています。またB型に関しては、新たな局面を迎えており、今年度の運営ポリシーの「ピンチをチャンスへ」が一番当てはまる部門でもあるため、明徳会らしい新たなB型の形を作っていく一年としていきたいと考えています。

●【障がい福祉サービス事業所 ケア・ハピネス】

昨年度から再度1.7対1の人員配置を行い運営することができたことで、人力的には安定してきており、今年度は昨年度実現することができなかった重度加算に関する視野に入れ、運営を行っていきます。新規ご利用者様の受け入れを実施し、安定して定員が満たしていけるような一年としていきたい。7年目を迎え10周年も近づいて来ているため、今まで培ったのは大切にしながら新たな物を作りだすチャレンジをしていきたい。

●地域連携室

【熊本市障がい者相談支援センターチャレンジ／地域生活支援センターメイト】

チャレンジに関しては委託3年目の一区切りを終え、一旦中央区での相談は閉め再度北区での委託をスタートすることとなっています。今年度から地域コーディネーターを配置した基幹型が本格化していくため、とても重要な一年となってくると考えています。前回の中央区での運営の反省点を活かし、バックアップ体制を整え地域連携部だけでなく法人全体で支え作っていくことを意識して取り組んでいきたい。メイトに関しては北区にチャレンジが戻ったことで今後の運営に関しては流動的に柔軟に対応し、後々はチャレンジに一本化することも視野に入れ運営を行っていくこととしています。引き続き人材確保と育成に関しては継続していき、相談支援ができる人材の確保と育成の両面を視野に入れ、充実を図っていきたいと考えています。

●ゆめくらし事業所

【オレンジハウス／アクアテラス】

昨年度10月から新たなグループホーム「アクアテラス」を開所しスタートしています。昨年度末までに定員20名中16名の方の入居が決定し、まずは定員を満たすことを目標に取り組んでいく一年となります。GHに関してもコロナ禍で思うような外出や帰省が行えずストレスを抱える入居者の方も多くおられました。ある程度入居者の目処が持てるようになってきているため、今年度コロナ禍の中でどのようにして充実した地域生活を支えていくかが課題となっています。入居されている方のストレングスに目を向け、その人の持つ力を信じて、地域での生活の可能性を高めていきたいと考えています。

●事務部・人事

人材確保が難しいといわれていた中で、「2020はたらく仲間プロジェクト」をスタートし、更に社会的にはコロナ禍の不況も影響してか今年度は新卒の入社もあり、安定してきています。今年度のポイントの中にもあげている、現代社会に即した多様性を考慮した雇用体制を目指し、福祉を目指す人材確保に引き続き努めていきたいと考えています。先行きが読めない情勢の中いかにして人材を確保していくかは、社会情勢も見ながら内外部ともに環境を整えていく必要があると感じています。

◇「安心」「安全」「安らぎ」に向けて

今年度の運営ポリシーの「ピンチをチャンスへ」を推し進めるにあたって、めいとくの里の名称の中にもある「チャレンジ」精神はとても大切な要素となります。ピンチの時こそチャレンジ精神をもって新たなことへの創造、実践していくことが重要だと考えています。

「チャレンジ」を進めるにあたって「三安」は相反する側面もありますが、チャレンジすることがその先の「安心」「安全」「安らぎ」につながっていくと信じて取り組んでいきたいと考えています。明徳会の新たなブランドを作り上げていくために、自分たちの強みを知り、PDCAを繰り返し行いながら、職員ひとり一人が実行へ移し、成長を感じることができるとしていきたいと思っています。

以上